

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	22120
政策名(章)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます	評価担当部	環境保全部
基本施策名(節名)	第1節 相模川の保全と魅力づくり	評価担当課	みどり対策課
施策名	相模川の魅力づくり	課長名	隅河内 司

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

川と関わってきた歴史や文化の保全と振興に取り組むとともに、相模川ならではの楽しみや憩いの場を整備し、表情豊かなアメニティー空間を創出するなど相模川の魅力作りに努める。
相模川計画に基づき、「相模川を愛する会」の活動支援や「相模川ふれあい科学館」のリニューアルの検討を進めるとともに、整備が完了している施設については、維持管理の充実や新たなソフト展開を図る。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		197,504	・「相模の大風センター整備事業」が終了したことによる減 ・「相模川沿岸施設等維持管理費」の予算を同種の事業である「緑地等維持管理費」に整理再編したことにより、相模川沿岸施設等維持管理経費のほかに緑地等維持管理経費を含めた額となったための増
人件費		72,611	
市民一人あたりの事業費	1,105	405	
合計	680,743	270,115	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

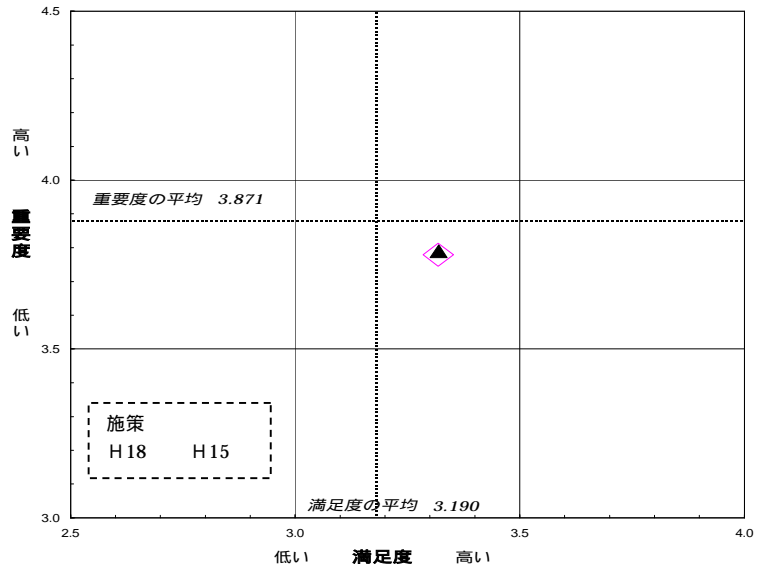
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	相模川ふれあい科学館入館者数の開設当初に対する割合(%)	(各年入館者数/開設当初(S63)の入館者数) × 100 H16 ÷ H63 × 100 = 72,769 ÷ 106,163 × 100	68.5% 72,769人	H16
指標2				
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	75,000	19	75% 80,000人	21	80% 85,000人	開館当初の入館者数の約8割を目標に設定。
達成率	117.4%					
指標2						
達成率	#DIV/0!					
指標3						
達成率	#DIV/0!					
指標4						
達成率	#DIV/0!					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.319で51施策の中で9番目。
 重要度は3.779で30番目である。
 改善要望度は - 0.1561で37番目である。
 年齢別にみると、満足度は、60歳以上で高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 重要度は、20歳代でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に下がっている。
 重要度の順位では、20、50歳代で前回調査より上がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	④ 2 1	ふれあい科学館は開設後入館者数の減少が続いていたが、近年特別展等のソフト面の充実により入館者が増加してきた。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	④ 2 1	ふれあい科学館は平成17年度魚類等の特別展示等により入館者数の増加があった。また、相模川クリーン作戦等を行う相模川を愛する会事業について、事業の見直しにより補助金の削減を行った。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 ② 1	市民満足度調査による満足度は51施策中9番目、重要度は30番目であり、平均値と比較して、満足度が高く、重要度が低い結果となっている。このことは、環境意識やアウトドアレジャー志向の高まりから市民の満足度が高くなっていると考えられる。	
合計		10	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 A

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	
解決策	

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

設定された指標が施策目的と適合しておらず、設定された指標の目標値の水準も甘く高評価となっている。構成事務事業が施策の達成に十分寄与しているか疑問である。課題と解決策を整理し、事業のスクラップアンドビルドに努めるなど、効果的な事業実施が望まれる。	2次評価 B
--	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

